

島根1、2号炉クリアランス審査に係る 対応状況及び今後の予定について

2023年1月16日
中国電力株式会社

これまでの対応状況及び今後の予定

◆ 経緯

- 第6回クリアランスに関する審査会合(2021年6月21日)において、申請対象物※の表面汚染密度の均一性や測定単位の保守性などに関し、エビデンスが不足している旨の指摘があった。
- 審査を一時中断し、エビデンスを充実するための追加データを採取することとした。

※ 島根1、2号炉 撤去済タービン設備(低圧ダイヤフラム及び低圧内部車室)

◆ これまでの主な対応状況

〔表面汚染密度の測定〕

- 島根1号炉全対象物及び除染を実施した島根2号炉対象物の表面汚染密度をGMサーベイメータで測定し、すべて検出限界値未満で均一な汚染の傾向を示すことを確認(対応完)

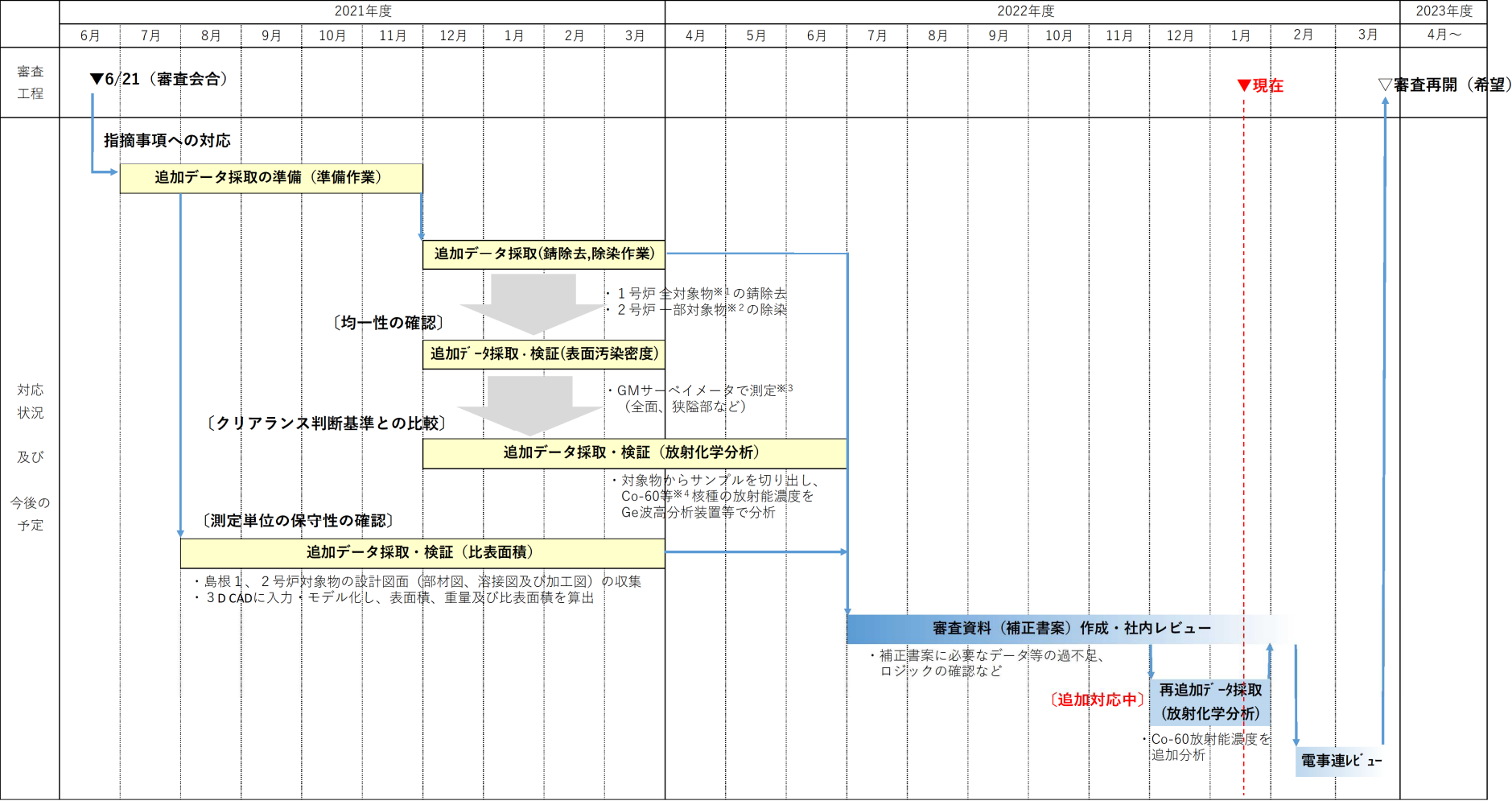
〔放射化学分析(放射能濃度の測定)〕

- 島根1号炉全対象物及び除染を実施した島根2号炉対象物ごとに、主蒸気が通過する箇所(噴口部など)からサンプルを切り出し、Ge波高分析装置でCo-60等の放射能濃度を測定し、クリアランス判断基準(Co-60の基準値(0.1Bq/g)の1/33を超えないこと)を満足することを確認。現在、社内レビュー結果に基づき追加対応中(1月末対応完了見込み)

◆ 今後の予定

- 追加対応中の放射化学分析結果を含めて審査資料として取り纏め、電事連レビュー実施後に、審査再開をさせたい。(今年度末目途)

対応工程(これまでの対応状況及び今後の予定)



※1：低圧ダイヤフラム及び低圧内部車室
 ※2：低圧ダイヤフラム (C系統 (高圧タービン側上段)) 及び低圧内部車室 (C系統 (高圧タービン側上半))
 ※3：島根1号炉 低圧ダイヤフラム及び低圧内部車室の全面測定、代表点及び狭陰部の測定
 島根2号炉 低圧ダイヤフラム (C系統 (高圧タービン側上段)) の全面測定、低圧内部車室 (C系統 (高圧タービン側上半)) のサンプルを測定
 ※4：クリアランス規則で定める33核種のうち放射化汚染はCo-60、Mn-54及びFe-59の3核種、二次的な汚染はH-3、C-14、Cl-36、Co-60、Ni-59、Ni-63、Sr-90、Nb-94、Tc-99、I-129、Cs-134、Cs-137
 及び全α核種 (Pu-239、Pu-241及びAm-241) の15核種を選定。 残りの核種は短半減期により減衰、対象物の材質に存在しない核種のため除外。